

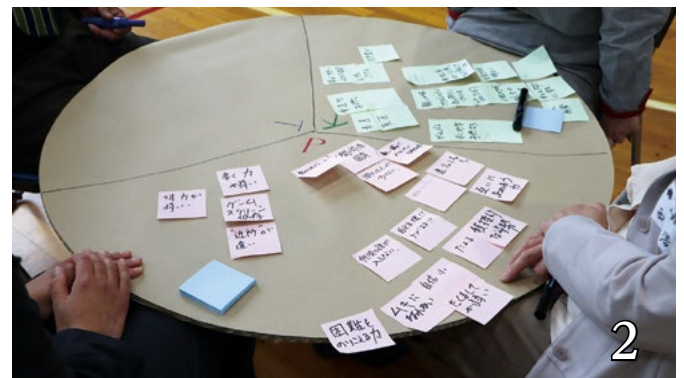
「川根のこどもを語る会」を開催しました

川根本町は0歳から18歳までの一貫性のある教育を目指して教育活動を行っています。このほど、保育園、義務教育学校、高校をつなげるための取組として、関西大学教授の岩崎保之先生^{いわさきやすゆき}を講師に迎え、川根高校で「川根のこどもを語る会」を開催し、町内の保育士や学校教諭などの教育関係者、役員職員、地域住民ら約100人が参加しました。

参加者は5人ずつのグループに分かれ、「川根で育つ子どもの18年の間に、わたしたちが支援でき

ことはなにか？」という問いに、自身の経験やアイデアを共有しながら、子どもたちの未来をより良いものにするために何ができるかを真剣に考え、意見を出し合いました。

意見交換の中では、「子どもの良いところを見つけて伝える」や「地域のイベントやワークショップを通じて子どもたちに多様な体験を提供する」など様々な意見が出され、会場内は活気に満ちていました。



- 1_異校種、異業種同士でグループを作り、意見を伝え合う
- 2_川根の教育や人、地域、学校の良さと課題について意見を出し合った様子
- 3_今後、自分が子どものために行動することを紙に書いて発表

いわさきやすゆき
岩崎保之 講師



関西大学 文学部 総合人文学科教授
教育ファシリテーションを専門とし、「探究的な学びのある授業」の講師など、教育支援活動を積極的に行っている

参加者へインタビュー



うえだ なおみ
植田直美さん

(コミュニティスクール コーディネーター)

—昨年、町内の中学生が企画した交流イベントに携わりました。子どもたちが企画から運営まで苦勞を重ねながら一生懸命取り組んでおり、子どもたちにとって貴重な経験になったのではないかと思います。

今後も、子どもたちが「やりたい!」と思ったことを実現できるように、お手伝いをしていきたいです。